

(昭和二十年)

八月十五日 水 晴

朝空襲 午前十時宗道へ行き三十分ほど子供達と

水草(堆肥用)をとつてゐると 又 空襲

正午ハ 重大報送あると言ふので 自転車部隊は

鯨井先生に引率されて 学校に向ふ 私は

徒歩の子供三十名ほどと お宮の庭に集つて

手を洗ひ口すゞぎて 陛下の御報送下さる勅語を

奉戴するため 附近の家の ラヂヲの前に集る

正午となる 勅語を奉戴しつゝ 涙禁じ得ず。

我等力及ばずして 終に破る 大御心のほどを思ひ

涙滂沱たり。 復興に専念せよとの御言葉を拜今は

直ちに 開墾の鋤とりたく思へども、 学校へ報告

すべきを思ひ 子供達を帰して学校に向ふ。

夜 校長先生の御宅を訪問し どうもろこしをいただく。